

GCI Global View

2010年4月12日

【目次】

● 創業 10 周年のご挨拶	P.1
● Global Markets	
1.オーバービュー	P.3

【連絡先】

株式会社 GCI アセット・マネジメント

○住所：〒101 - 0065 東京都千代田区西神田 3 - 8 - 1

○電話番号： 03 - 3556 - 5540(代表)

○電子メール： administration@gci.jp

金融商品取引業者

関東財務局長(金商) 第 436 号

日本証券投資顧問業協会 加入

当資料は、株式会社 GCI アセット・マネジメントが情報提供を目的として作成したもので、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報データに基づき作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、当社が保証するものではありません。当資料における見解は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

創業 10 周年のごあいさつ

投資家の皆様

いつもお世話になっております。

GCI グループの創業は 2000 年 4 月 13 日です。おかげさまで創業 10 周年を迎えることができるのも、ひとえに皆様のご愛顧ご支援の賜物です。本当にありがとうございます。

IT バブルに沸いていた創業当時は、1998 年にかけてのアジア危機や LTCM ショックから立ち直り、一気にグローバル化・経済の市場化（規制緩和）・IT 化（情報通信革命）が加速した頃でした。その波は、リーマン危機までの 10 年で一巡し、いままた新たなステージに入ろうとしているものと感じています。

創業以前、私は日本興業銀行（現みずほフィナンシャル・グループ）でマーケット関係の仕事に携わっておりました。そして、1996 年からのシンガポール駐在時に、ヘッジファンドのようなオルタナティブ投資とか、インターネットなどの IT をフル活用した新しい金融サービスと出会い、また、アジアを中心とする新興経済の圧倒的なダイナミズムの中に身を置くことによって、「20 世紀型インフレ時代の終焉」を確信したことが起業の原点です。

「インフレの世紀」を前提に構築された資産運用理論は、グローバル化するデフインフレ時代には所期の成果を挙げるのが難しくなり、オルタナティブ投資の必要性が高まるのではないだろうかと考えていました。また、日本版ビッグバンなどの規制緩和とインターネットが投資環境を大きく変えていくだろうし、その中で大手金融機関が提供するにはハードルがある斬新な投資サービスを金融ベンチャーとして提供することによって、日本の投資家やグローバルな金融市場に対して何がしかの貢献ができるのではないだろうかというのが創業の背景です。

当社グループの企業ミッションは、創業来、「投資立国日本に貢献する」ことです。

この 10 年間で大きく環境が変化したことと、なんら変わっていないこと（あるいは元に戻ったこと）があると思います。

グローバル化と IT 化は予想以上の速度で進んでおり、現在進行中です。私はよく、グローバル化は国際化と違うと申し上げてきたのですが、電子的に結ばれた不眠不休のグローバルな金融資本市場が、国境の存在とは異なる次元で出現しました。多くの市場参加者にとって投資環境は劇的に改善する一方、資産クラスや地理を超えて各市場は一体化し、古典的分散投資が機能しづらくなりました。これは 21 世紀を貫くような長期的なトレンドだと思います。

一方、経済の市場化（規制緩和）はリーマン危機を経ていろいろと修正が図られています。

金融というのはそもそもユーティリティ（公共財）とも定義される公共性が高い事業の
はずでしたが、自由化やネットビジネス（IT化）の波に乗って成長する中で、過剰な部分や
歪んだ面が目立ち始めたということなのでしょう。それは、たとえば拝金主義やサービス
のエンターテインメント化などが突出して均衡を失うと、社会全体として見た時に便益よ
りも弊害が大きくなる、という形で問題が顕在化しました。

そう考えると、オルタナティブ投資に代表されるようなまだ若く新しい事業・商品ほど、
金融業本来の存在意義とか付加価値を問われ直しているのではないかと思います。

これからも、創業当時の初志を胸に刻み直し、投資家の皆様のご期待に添えるよう、努力
していきたいと思えます。引き続き、ご指導とご愛顧をよろしくお願ひします。

2010年4月

株式会社G C I キャピタル 代表取締役社長CEO

株式会社G C I アセット・マネジメント ファウンダー

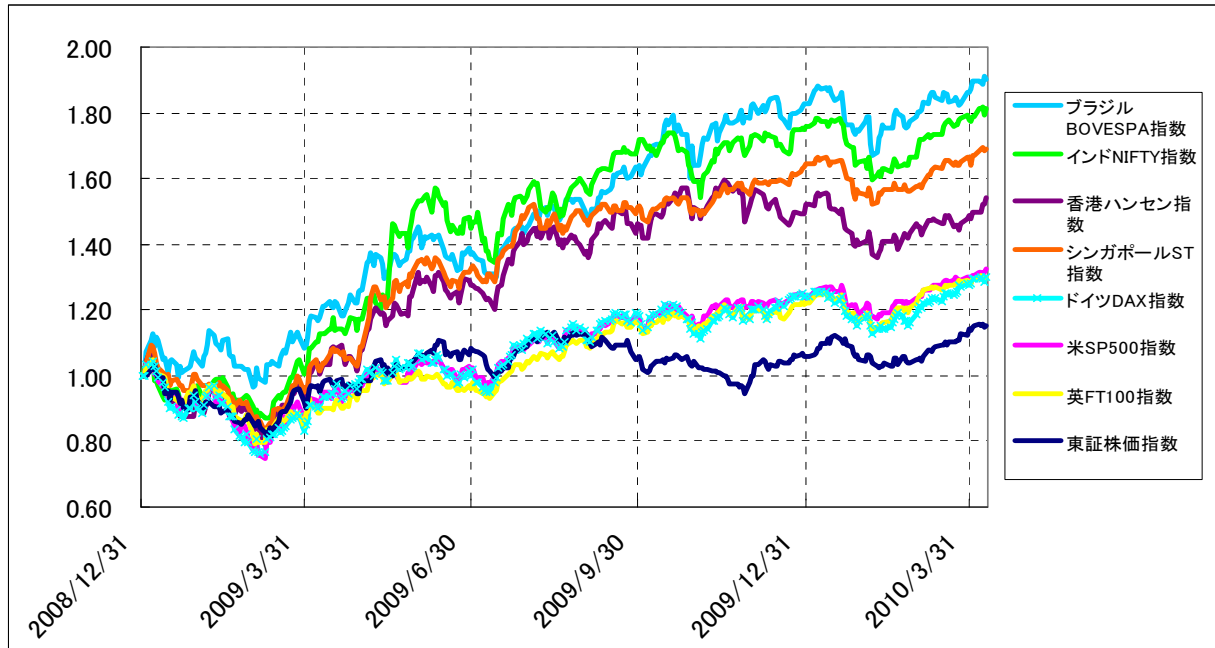
山内英貴

Global Markets (4月5日～4月9日)

1. オーバービュー

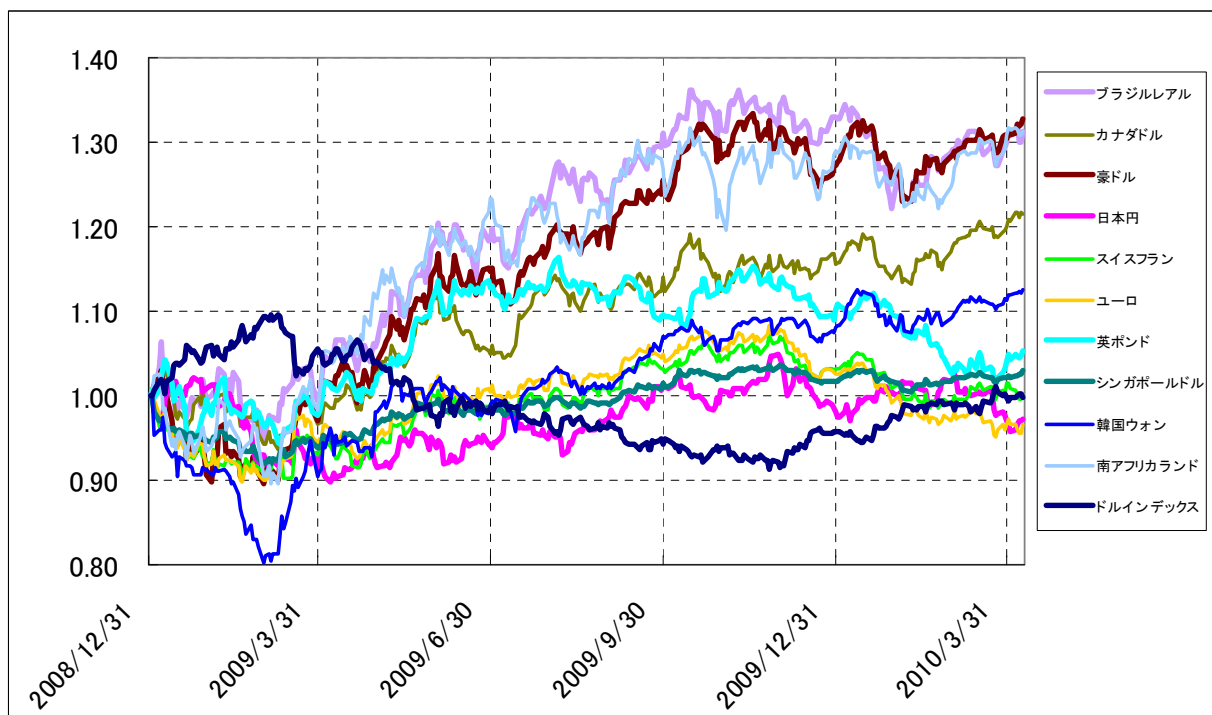
ギリシャの金繰りに対する不安が再燃しているものの、グローバル市場はこれをあくまで局所的な問題としてとらえ株式市場は概ね堅調な推移となった。先進国における経済ファンダメンタルズは回復基調にあるものの、一方でFRBをはじめとする主要中央銀行が緩和解除期待を急ぐほどの強まりはなく、インフレ期待も落ち着いていることに心地よさを感じているようにもみえる。

【各国株価インデックスの2008年末からの変化率の推移】

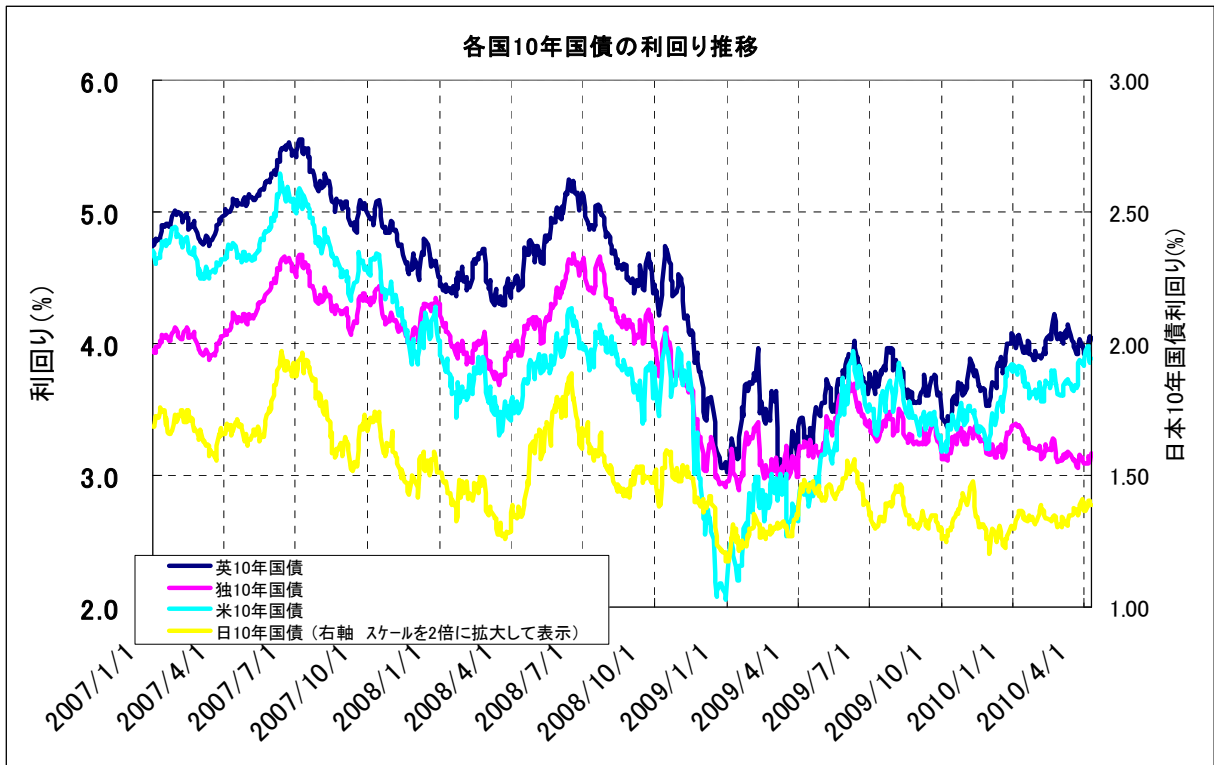


円は反発。資源国通貨への資金流入が続く。貿易収支の赤字化により目先の人民元切り上げ期待はややトーンダウンしたものの、引き続き当局がタイミングをさぐっている状況との見方が市場では主流に。

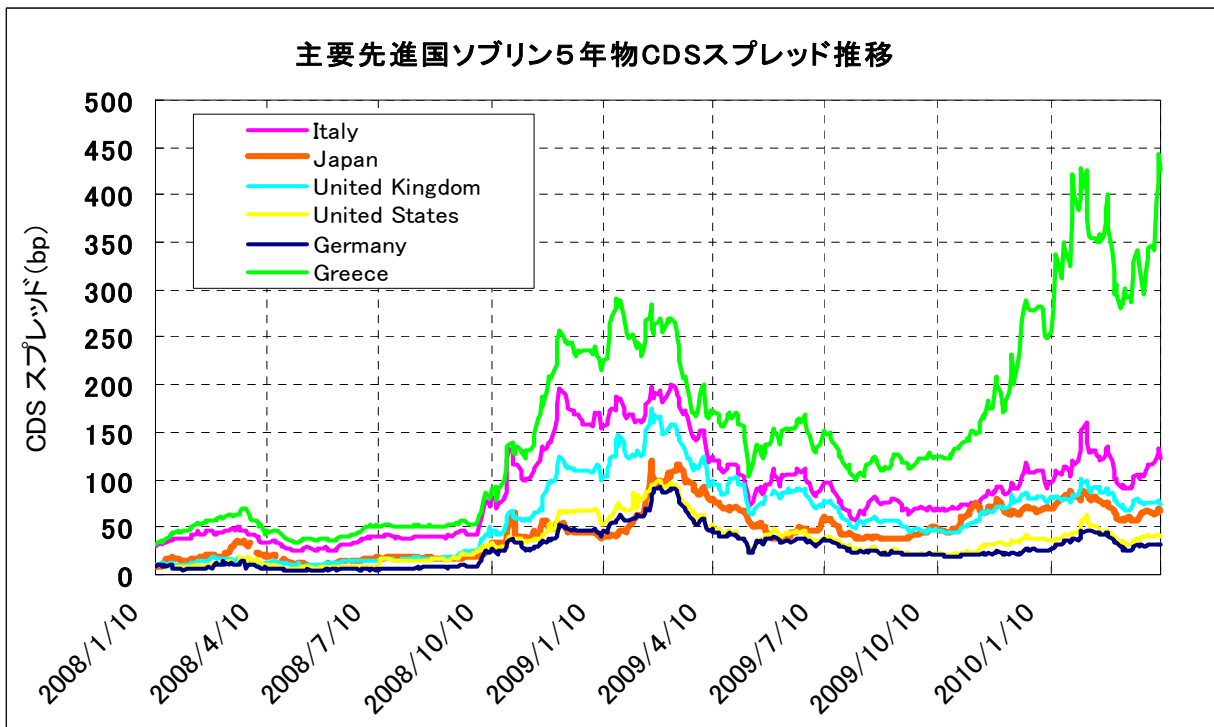
【各国通貨の2008年末からの対ドルでの変化率の推移】



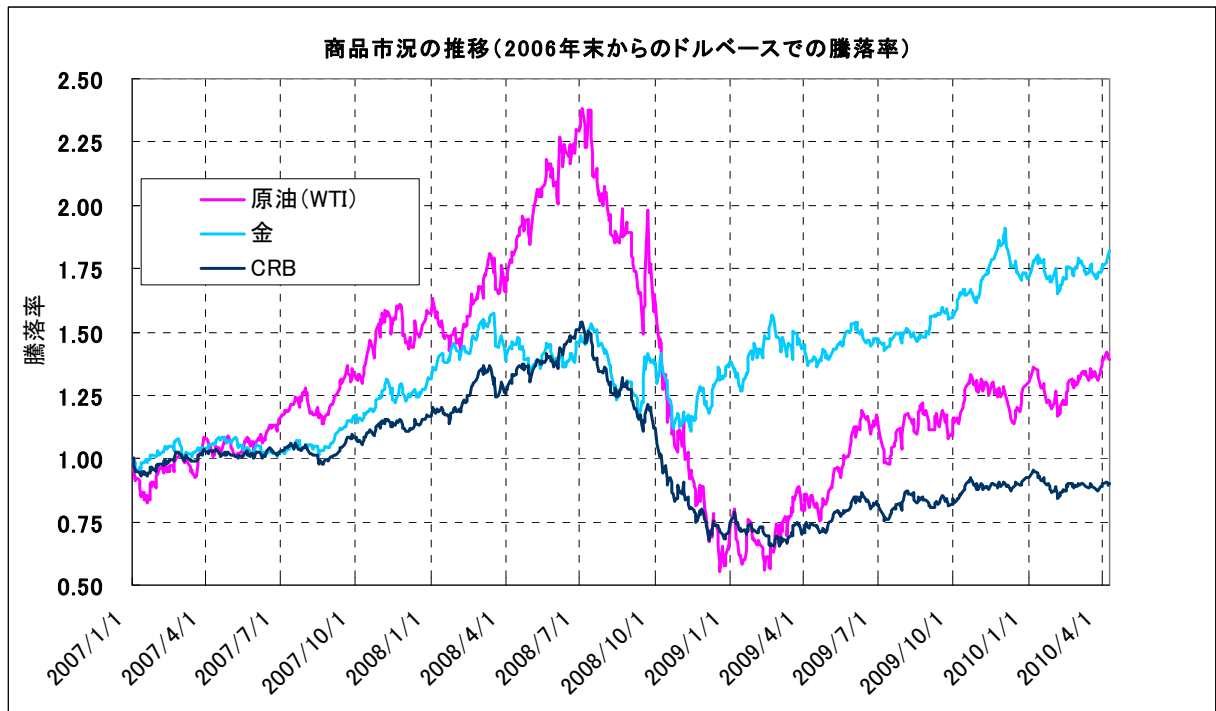
米国での雇用増を材料とする債券利回り大幅上昇後も、ギリシャの懸念が市場で燻ぶり続けていることから欧州では追隨した動きは目立たず、米国でもその後もみあいが続く。



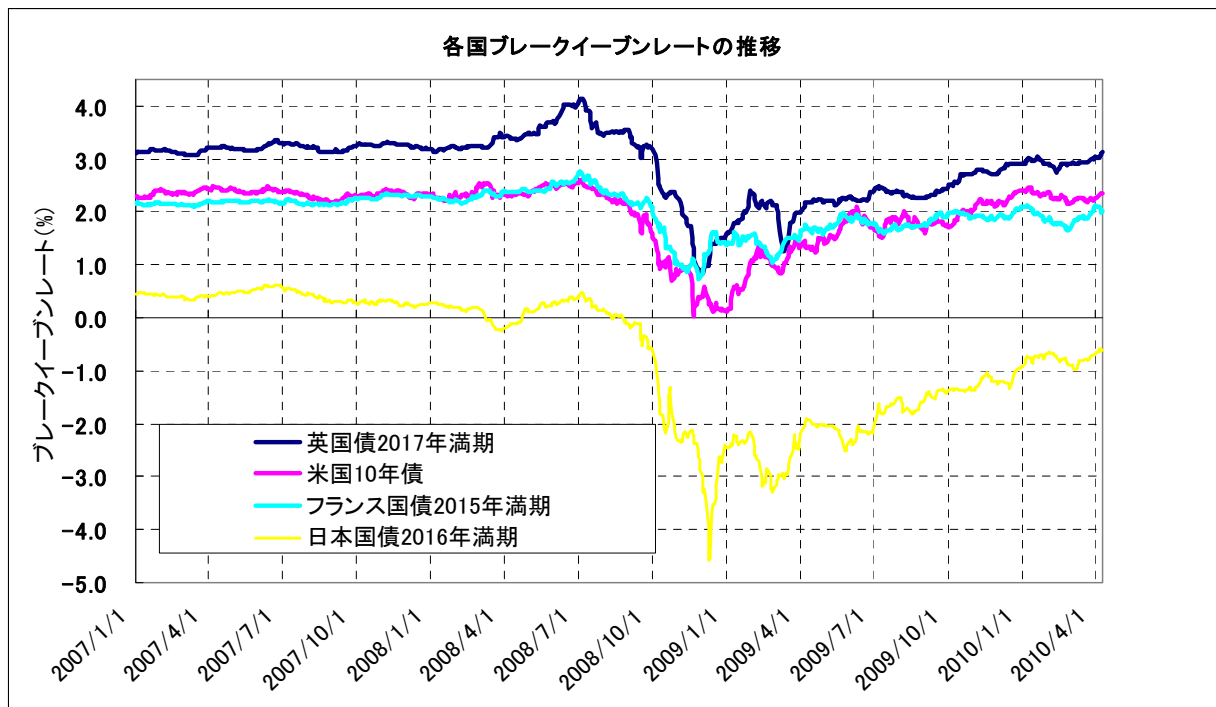
再度ギリシャの金繰りに対する不安が高まり直近のピークを超える水準にギリシャのソブリンブレッドが拡大。週末に EU 支援策の具体案が固まったことから週明けには軟化する見通し。



原油価格は足元の景気回復期待からこしばらくのレンジを上抜け 80ドル台半ばに。ゴールドもソブリンリスクへの警戒が強まったことから昨年 12 月以降続くドルの反発局面においても限定的な調整に留まっている。



ブレイクイーブンレートも小幅ながら上昇圧力が強まる兆しも。



(末永)